神戸市立井吹西小学校　学校評価報告書

校園長名　川原　耕一

<table>
<tr><td>学校づくりの目標</td><td colspan="6">「やさしくていねいに」「一人も残さない」指導を基本方針として、ひびく心かがやく瞳・きり拓く力を持つ子供を育成する。</td></tr>
<tr><th colspan="2">内容</th><th>重点的な取組み</th><th>評点
(4段階)</th><th>特記事項
(学校自己評価)</th><th>関係者評価
(学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)</th><th>学校自己評価、関係者評価を踏まえた
次年度の重点的な取組みの案</th></tr>
<tr><td rowspan="4">育てたい子供の姿</td><td colspan="6">ひびく心・かがやく瞳・きり拓く力を持つ子供（仲良くする子・自ら学ぶ子・やりぬく子、必要性を理解し主体的に学習する子、ともに学び多様性の中で協力して課題に取り組む姿勢を持てる子、素直さを活かし柔軟にしなやかに社会性を獲得していける児童）</td></tr>
<tr><td>個別最適な学びができる子供</td><td>算数の15分モジュールでの個別最適な学びの模索・工夫、自分学習の充実、GIGA端末の活用</td><td>3</td><td>保護者からは90%の「できている」評価をいただいているが、職員は厳しい自己評価となっている。一層の研究の必要あり。</td><td>・モジュール等、最近取り入れられた方針が多いので、子ども自身も慣れが必要だと思います。先生方の自己評価が低めですが、それぞれの先生が課題点を見つけていたり、より良くしようと試行錯誤してくださっているところなのだと感じました。
・短時間集中は理にかなっている！
・つまづきや苦手なことが分かるようになるのは良いと思う</td><td>5月に評価の職員研修を予定する、教科担任制による専門性の向上を図るなど、研究を続けていく。</td></tr>
<tr><td>協働的な学びができる子供</td><td>授業で目標の明示・ペアワーク、グループワーク活動・振り返りによる達成度の確認</td><td>3</td><td>保護者からは82%の「できている」評価をいただいているが、職員は厳しい自己評価となっている。一層の研究の必要あり。</td><td>・温かい教室作りをして下さっている先生方に感謝致します。
・ペア・グループ活動でのびのびと活発に楽しく学べている。
・自分の意見が言いやすくなり、発表や説明をすることで自信につながることは良いと思う。
・教えてもらう子が恥ずかしさからか、しょんぼりした表情の時があった。同じ年齢で教えてもらう。劣等感を感じず、苦手分野は助け合う空気が当たり前になると良いなと思う。</td><td>外部の方々と連携したり、ICTの活用により仲間の意見を共有して多様な考えを尊重しながら合意形成するなどして、協働的な学びを進めていく。</td></tr>
<tr><td>将来に結びつく力を持つ子供</td><td>「（16-n）年後に必要な学力」を意識した指導、評価の持ち方など職員研修による指導目標設定、学年打合せによる指導法の充実</td><td>3</td><td>こちらも保護者からは82%の「できている」評価をいただいているが、職員は厳しい自己評価となっている。一層の研究の必要あり。</td><td>・机に向かうだけでは養えない力を一年生から指導されていることに感心いたしました。
・習熟速度は個人毎に異なるので全員が足並みそろえて同一目標レベルに達するのは困難。一人一人の子供が継続してこつこつ学習を重ねていく姿勢を大事にしたい。
・先生がそれぞれの子の得意を見出し、一つ自信をつけさせてあげる事でその他の事も頑張ってみる力がつくのではと思いました。先生も手探りな中、今出来る事を全力でしてくださっている事は伝わっています。</td><td>課題解決型の学習（PBL）を多く取り入れるなど、知識だけではない、新しい時代に求められる資質・能力の向上の研究を続ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">全市的に推進すべきこと</td><td>①いじめ防止対策に関する取組み</td><td>日々の見守りと情報収集、毎月のいじめ対策委員会、学期ごとのいじめアンケート</td><td>4</td><td>保護者・職員ともに90%近くの評価が出ている。ていねいな取り組みを続けていきたい。</td><td>・風通しが大事。井吹西小学校は風通しが良い。丁寧に取り組まれている。
・丁寧な取り組みありがとうございます。
・アンケートを活用し、小さな事でも逃さないよう目を光らせ、話し合いの場もしっかり持ってくださっていると思います。子どもには子どもの世界があるのでなかなか一筋縄ではいかない事もあると思いますが、許されない事、という空気感が無意識下に拡がる地道な活動が大切だと思います。</td><td>いじめは許さないという基本姿勢のもと、これまでの取り組みをていねいに続けていく。</td></tr>
<tr><td>②不登校支援の取組み</td><td>保護者と連携して協働で対応、フリースクールやくすのき教室など外部組織との連携</td><td>3</td><td>職員の自己評価では、4点満点のうち3･23点（80%）となっている。対応ルームを含めてまだまだ改善の余地はあると考えている。</td><td>ケースバイケースの対応になるのだろうけれど、家庭・学校・地域でできることを…。暖かく見守っていきたい。
・学習支援など私たち地域でできることがありましたら、応援させていただきます。</td><td>新たな校内サポートルームの新設や支援員の増員を図ることで、担任・養護教諭・生徒指導担当教員・スクールカウンセラー・外部機関との連携を進める。</td></tr>
<tr><td>③教職員の業務改善</td><td>事前調整による会議時間の削減、学年打合せの充実による教員の相互支援、教科担当制による授業準備軽減</td><td>4</td><td>職員の自己評価では、4点満点のうち3･5点（87.5%）となっている。木6のモジュール化による授業時数適正化が効果を発揮している。</td><td>職員間の意思疎通が図られ、相談協力支援がスムーズに行われる体制であれば10の重さが7～8ぐらいの重さになることも…。</td><td>職員は組織対応をベースにし、学校運営協議会・PTA・ふれあいまちづくり協議会・青少協などと連携して、一極集中にならないような運営を目指す。</td></tr>
<tr><td>④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信</td><td>すぐーるによるこまやかな連絡、ホームページによる毎日の情報発信</td><td>4</td><td>保護者95%、職員89%と高評価となった。引き続き発信に努めていきたい。</td><td>・ホームページでの日々の情報発信は学校での出来事が良くわかる。楽しみにしているご家庭も多いのではないか。続けてほしい。
・現役保護者として、かなり満足しています。
・ホームページにて細やかな発信。楽しく拝見しております。これからも開かれた学校づくりをお願いいたします。</td><td>ホームページ、すぐーるに加えて、持ち物などの情報発信については、低学年はより細やかに、といった学年ごとの工夫をより進めていきたい。</td></tr>
<tr><td>⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について</td><td>年度ごとに児童・職員による見直しと次年度への修正</td><td>3</td><td>職員の自己評価では、4点満点のうち3･38点（84%）となっている。安全にかかわる部分のルール（ポケットに手を入れない）などは、理由も子供たちに伝えていく。</td><td>・決まり事も定期的な見直しが大事。
・安全にかかわる部分については、まずは家庭から教えるように伝えていくべきではないか
・この度は地域の声、現状に合わせて通学路の変更をご検討いただき、ありがとうございました。</td><td>一日のかなりの時間を過ごす学校生活において、命、健康、学びの目線に多様性も踏まえながら、子供の考える力を伸ばす観点で考えさせていきたい。</td></tr>
</table>

【評点】４：十分達成できた　３：おおむね達成できた　２：どちらかと言えば課題がある　１：課題がある